

水田のジャンボタニシ対策

1. ジャンボタニシの生態

一般的にジャンボタニシといわれているものは、学名を「スクミリンゴカイ」と言い、食用にするため輸入され水田で養殖が始められました。その後養殖が放棄され水田や水路で繁殖して水稻などに被害をあたえています。

(1) 卵

ジャンボタニシの卵は赤く、長さ3cm、幅1.5cmほどで水上の植物やコンクリート壁などに産み付けられます。孵化までの期間は、温度によって大きく異なりますが、25℃の場合は2週間程度です。繁殖の期間は4月～10月ごろです。



菊川市内でも、水路の壁の水の上や稲の苗の水の付近に見受けられました。

(2) 成長、寿命

条件がよければ2か月程度で成熟します。オスは殻高25mm、メスは30mm程度で繁殖可能となります。さらに成長する5～6cm程度になり在来のタニシよりも体型がかなり大きくなります。日本の水田では、基本的に1年数か月しか生きないようです。



(3) 環境耐性

大変乾燥に強い貝です。半年以上水がなくても生き延びることができるといわれています。寒さには弱く、 -3°C ではほとんどの個体が3日以内に死にます。大きなジャンボタニシは、土にもぐるのが下手なため、冬季はほとんどが死んでしまいましたが、小さなジャンボタニシが水田の土壌内や水路等で越冬し、気温が上昇し、水田に水が張られると活動を開始します。

(4) 食性

食べ物は、水稻（田植え直後の稲）、レンコン（幼葉）などのほか魚なども食べる雑食性です。稲は、大きくなるとほとんど食べなくなります。（田植え後3週間程度まで）

(5) 天敵

ネズミ、サギ、カモ（アヒル）、スッポン、コイ、フナ、ホタルの幼虫、ヒルなどが天敵として挙げられます。

2. 被害

市内では、田植え後の稲の苗が食べられてしまう被害が出ています。

平成28年度は、小笠地区の嶺田地区、上平川地区、棚草地区の順で発生が多く見られました。菊川地区では、主に神尾地区、河城地区で見受けられました。

市では平成28年度に水路に生息するジャンボタニシの捕獲を実施しましたが、捕獲量は4月から8月までに約4トンを捕獲しました。

3. 駆除対策

(1) 耕種的防除

田植え前

i 圃場耕起

貝は地下0～5 cm で越冬します。厳冬期、田植前または秋の収穫後に乾いた水田で浅く回転を早くロータリー耕をし、貝を破壊してください。特に厳冬期が効果的とされているため、厳冬期に2回程度耕起するのが望ましいです。

地域拡大防止のため、トラクターなどを移動するときは、よく洗って貝の生息域拡大防止に努めてください。

ii 侵入防止

取水口、排水口に20～5mm 目程度の金網を設置する。付着した貝を除去してください。

iii 早植え

気温が低いと貝の行動が抑えられ、また、貝は柔らかく小さい稲を好むので早い時期に植えると被害が少ないといわれています。

田植え後

i 浅水管理

貝が水稻に被害を及ぼすのは田植え後3週間までです。また、水深2 cm 以下では貝が活動できません。そのため、この間は水深を浅く保つと実害がほとんどなくなります。田面の深いところでは貝が活動しやすく苗の被害が集中し、土が水から出ているところは除草剤の効きが悪くなるので圃場の凸凹がなくなるよう平らにすることが必要です。

ii 手作業で貝を殺す

手作業で貝、卵塊を見つけ次第補殺する。卵は、水中では呼吸できないので、水路の壁などから水中に削り落とします。以下のような誘引剤を使うと効率的です。

なお、ジャンボタニシには人体に有害な寄生虫がいる場合があるので、素手で扱わないようにしましょう。

集めた貝は地中深く埋めるなど、適正に処理してください。

《誘引剤等による補殺事例》

市販のトラップや誘引剤を使うほか、次のような事例もあります。

野菜で集めて捕獲する事例

圃場内の数か所にえさ場を設け、野菜を置いておき集まった貝を補殺してください。スイカ、トマト、ナス、レタスなどを好むようです。（福岡県農試の報告）

酒かすと小麦粉の団子で貝を集めて捕獲する事例

酒かすと小麦粉を混ぜて丸め、二重に重ねた市販のお茶パックの中に入れて完成です。田んぼの約 100 平方メートルの範囲に一個ずつ置き、3 日後、集まったタニシを除去してください。網の上に誘引剤を置けば近寄ったタニシを一網打尽にできます。（沖縄県の事例）

段ボール片で貝を集めて捕獲する事例

30cm 四方の段ボール片を水路や畦畔に立てかけておきます。翌日、水面下の部分に貝が食いついているので補殺してください。（山口県の事例）

(2) 化学的防除法

i 石灰窒素散布

田植前または稲刈り後に散布してください。(元肥の調整が必要)

〈秋期の防除〉

稲刈り後の水温が15℃以上の時に3～4cm水を張り、1～4日放置し、石灰窒素(農薬登録があるもの)20～30kg/10aを全面に散布して3～4日放置します。田面水は必ず自然落水して、田面が乾いたら耕うんしてください。

〈田植え前の防除〉

荒起こし後、3～4cm水を張り、3～4日後石灰窒素(農薬登録があるもの)20～30kg/10aを全面に散布して3～4日放置後に田植えを行ってください。

ii 育苗箱施用

パダン粒剤4を育苗箱施用することで食害防止効果があります。

iii 本田施用

スクミン剤(殺貝)、ジャンボたにくん(殺貝)、キタジンP粒剤(殺貝)、パダン粒剤4(食害防止)、ルーバン粒剤の散布で効果があります。

《注意》

農薬の使用については、それぞれ適正な使用時期、量、回数に注意をしてください。また、魚や貝類へ影響するため、河川、水路で使用しないでください。